南北海道外洋帆走協会　　会報２２８号

総務委員会
2011.4.7

▼ 平成２２年度第２回全国評議委員参加報告

石川　彰

去る、平成２３年３月１２日（土）東京都内渋谷の岸記念体育館にて開催予定の全国評議委員会に出席の為、１１日（金）１２時３５分羽田行きの飛行機に乗った。１日早く行ったのは、みなさんご存知のヨットどんたくの楢崎氏（静岡県沼津）に会いに行く目的も一方ではあった。

羽田に着き京浜急行で品川から新幹線に乗る予定で順調に進んでいたのだが、品川駅に到着し新幹線に乗ろうと構内のエレベーターを下っていたその時、電気がバンと消えエレベーターが突然停止その瞬間、同行していた弟が地震だ（東北関東大震災）と一言、慌ててエレベーターを降りて駅前の広場に向かう、相当の揺れで多くの乗客が慌てふためいていた。また、停車駐のタクシーも激しく揺れ運転手が「おっかねー」と言い車から出て来る始末。近くのマンホールがばんばんとはじけ高層ビルは大きくなびいた。

駄目元でみどりの窓口へ行くも、ＴＶでは地震情報で交通機関は全面ストップ、画面では目を見張る様な光景「何てことだー」今日の沼津行きは難しいかもと脳裏を過ぎった。その間も構内は余震で天井の電気ががたがた音を立て揺れる。

携帯は全く利かず何とか先方の楢崎氏から電話が入るがその後不通。とにかく東京を脱出しなければと思い、とっさに考えたのはレンタカー！品川駅から徒歩１０分何とか見つけ借りようと多くの人が並んで手続きをとる。ラッキーにも何とか借りられる事になり出発、しかし、高速は通行止めに渋滞が発生しなかなか東京を脱出できず。歩道には電車に乗れない都民が家路を急ぐ。４時間経過し２０時になってもまだ都内、今日中は無理かと思いすぐ旅館をキャンセル、新横浜駅前のホテルは満杯状態で途中のホテルも全く空室なし。結局横浜のコンビニ近くの空き地に停車し食料を調達。すでに弁当は売り切れ状態。

しかし、ビールはしっかり確保、流し込むように１本２本と空け疲れと緊張から早く脱却しなければと思う一心。ようやく睡魔が遅いそのままドボーン、５時に覚醒し再出発、ようやく静岡県内に入り山頂を雪で飾った富士山が朝の澄んだ空気にスッキリ何事もなかったように輝いていた。結局楢崎氏は前日の夜に東京に戻ったらしく行き違いであった。何とか「どんたく」のハーバーを一目だけどもと思い車を走らせたが結局海岸方面は津波警報で交通規制に阻まれ断念、山越えで熱海に出て熱海は何とかハーバーを見ることができた。その足で東京へ、ラジオ情報で大きな被害にこんな事もあるのかとやるせない気もちで一杯であった。

次の日１２日岸記念体育館で１０時３０分から評議委員会が開催。当然東北地方からの参加者ないままで開催。議事の前に各団体からの報告で被害状況の報告に終始した。

いずれにしろＪＳＡＦとして今後東北地方に何が出来るかを議論し、まずは義援金の開始を確認した。いずれにしろ被害状況がわからないままではなんともしようがないので、ＪＳＡＦとしても実態把握に取り掛かる旨確認された。その後、山崎達光会長から挨拶があり。本来であれば海と仲良くするヨット競技だがイメージダウンは計り知れないと語った。いずれにしろ、今後の対策をみんなと知恵を出し合って進めて行きたいと挨拶された。

評議委員会では各案件事項が満場で採択された。この度の出来事は一生忘れられない事になりそうだし生きている事への感謝の１ページでもあった。

＊＊＊アンカーライト＊＊＊

第１０話　「今回の災害」

１０００年に一度の災害だそうである。１１日の発生以来、報道される画像を見て言葉を失ったのは拙ばかりではないでしょう。　比較的被害の少なかった北海道でも船舶の被害が２４００隻以上と報道されていた。

勧進のＨＰで語られていたが、宮城外洋帆走協会のＨＰの写真を見ると水没や陸揚げ、座礁と相当の被害が出ている。

幸運にも我が外帆での被害は古ポンツーンが１台破損し、廃棄処分したに留まり各艇にも大きな損傷はないもようだ。

地震当日、大津波警報を聞きすぐにポンツーンに駆けつけた。２m以上との津波警報から沖だしも考慮したが職場からの呼び出しも有り「もやいを」１mほど緩めて一旦職場に戻った。第１波はそれほど大きくはなかったのでタカをくくっていたきらいがあった。

職場の制約が解けポンツーンに戻ったのが１９時半ころ、何波目かの海面上昇があり緑の島を海面が軽々と越えている。その後の引きがすごかった。拙艇と橋の中間あたりが完全に露出した。次ぎに来る津波に恐怖を感じスタコラ橋まで逃げた。見てるとミンミンやマサシが４５度ほど傾斜しミンミンのマストがじわじわと拙のマストに接近してくる。運を天に任せ祈るばかりだ。マスト間１mほど残して接触することなく次第に海面が上昇し、やがてまた島は水浸しとなる。これを何度も繰り返した。

満潮の時間は19時半ころ、満潮から底が見えるまでの時間およそ6分、そしてそこから島の水浸しまで８分ほど。なんという自然のパワーだろう。体が震えた。

しばらくそばで監視していたがポンツーンが島の陰のせいか大きな波が襲うことなく、海面の上下のみであったため流されることもなく、また、以前のアンカー方式からパイルに変えたこと。ポンツーンも新しくしてそこからもやいを取っていたことなどが功を奏し艇の被害が出なかったのではないか。

甚大な被害の中でプレジャーヨットの被害など話題にものらないが、東北太平洋沿岸のヨット関係者の中には艇はおろか肉親が被災されたかたもいらっしゃることと思います。

心からお見舞い申し上げるとともに早期復興を願うばかりです。